

平成 30 年度

事業所名 : グループホームやすらぎの里

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370700288		
法人名	社会福祉法人門前保育会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	岩手県久慈市新中の橋4-12-2		
自己評価作成日	平成30年12月3日	評価結果市町村受理日	平成31年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0370700288-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者様の出来る部分に着目し、生活で活かせるよう支援している。
- ・全利用者様の笑顔を見られるよう、常に職員も笑顔を忘れず、接している。
- ・同法人の園児と交流が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木材をふんだんに使った落ち着いた事業所の同じ敷地内には、法人が運営する保育園がある。利用者にとって、日々の保育園児との触れ合いが楽しみになっているだけではなく、合同避難訓練、保育園バスでのドライブ、ベンチのお下がりがなど、緊密な連携が図られている。「尊厳は介護の理念」を旨とし、その人らしさを見出して思いを汲み取り、食材の買出し、調理補助、清掃、ゴミ出し等のお手伝いなど、やりたかったことを自分の励みとしてやれる介護の実践に努めている。食堂を兼ねたホールには、歌を歌い、なぞなぞやトランプなど興じる笑顔で活気ある利用者の姿がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝の申し送りで運営思念を復唱し共通認識をもち、利用者の意向をくみ取れるよう支援を行っている。 ・上司に意見を言いやすい人間関係が出来るため、悩んだときに相談している。	職員の意見で変更した理念を掲げ、ちょっとした会話や仕草からもその人らしさを見出し、職員が力を合わせ、利用者の希望に添いながら、出来ることは一緒に何でもやろうの思いで日常の介護に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・畑作業や買い物時等、地域の方々から挨拶して頂ける。 ・収穫した野菜の交換や保存の仕方、食べ方等話をし交流を深めている。	法人運営の隣の保育園児が園庭から手を振り、可愛いらしい声が聞こえる。近くのスーパーに散歩がてら買い出しに出かけると、地域の方が向こうから声をかけ、事業所では中学生の職場体験を受け入れるなど、事業所内外での交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・中学生の福祉体験等の受け入れを通じ、認知症の理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・職員が交代で参加。会議録の回覧により、会議内容を把握し、サービス向上に活かすよう意識している。	利用者家族、市の担当職員、地域の区長、元民生児童委員に加え介護保険を熟知している方2名で構成され、2ヵ月毎に開催されている。数年前に一部地区で被害があった洪水の記憶が鮮明で、その避難方法についてアドバイスを頂きながら意見交換し、改善している。	運営推進会議は、事業所運営上の応援団の役割りが期待され、安全・安心を確保していく観点からも、消防関係者をメンバーに加えることを一考されることが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議のメンバーに市役所の方がいるため情報のやり取りをしている。 ・包括職員等講演会や研修会等施設に情報提供を積極的に行ってくれる。不明な点等はTELなどで相談している。	介護保険等の情報は広域連合から直接メールで届き、疑問や不明点があれば、随時、電話で相談し解決している。災害時の避難場所については事前に市と相談し、対応していきたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中の玄関の施錠は行っていない。 ・会議の中で身体拘束について話し合っている。 ・「これってもしかして拘束？」と考えながら仕事することが増えた。	玄関は夜間のみ施錠している。スピーチロックに関しても、職員間で今のはどうかと話し合っている。グループホーム相互の交換研修を通じ、事業所での取り組みを勉強し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待について会議等で確認 ・職員の言葉や行動で気になる時には、職員同士で声を掛けあい、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を利用している方はいない。 ・講習会などに参加する事により、職員も制度理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には十分な説明を行っている。 ・不安や疑問はその都度解決している。 ・改定時には文書等で案内、来所時説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に意見箱を設置しているが投函されたことはない。 ・利用者の希望に沿った外出や散歩などは出来る限り対応に努めているが、職員不足の時には対応できない時もある。	家族の面会時などに事業所での暮らしぶりをお伝えしながら、意見・要望を聴くようにしている。家族とは要望に至らず雑談で終わることが多いが、その積み重ねが様々な意見に繋がると考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・業務会議の際に意見を話し合っている。 ・個人的に時間を取ってもらうときもある。	管理者は、日頃から職場内に何でも話せる雰囲気を作っている。毎月の業務会議で職員の意見や提案などを話し合い、最近では、夜間の避難路の確保について職員から問題提起されている。勤務割は職員の希望を入れたものとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務内容など職員で話し合っ、その都度働きやす環境作りに取り組んでいる。 ・職員の家庭環境等に応じ勤務内容などを検討してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・実務者研修や資格取得のための研修会等には積極的に参加を薦めてくれる。 ・参加のための勤務を融通してくれる。 ・様々な研修会に参加出来る様に回覧で研修参加の希望を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH交換研修にて他施設と交流している。 ・小規模事業所の研修会等に参加を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人が話しやすい環境を作り、傾聴する事を心掛けている。 ・常に「あなたのそばにいます」という雰囲気や伝わるよう、利用者の顔を見る様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の要望を聞き取り、少しでも安心して頂ける様努めている。 ・施設だけの対応が難しい時には、居宅ケアマネ等の相談しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・申し込みの段階で困っている事、希望などを聞き取っている。 ・入所後は家族の協力できる範囲や金銭面などを考慮しサービスの内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・一緒に作業をする事により、「職員が助けられている」という状況を作り、「お互いに協力しあってる」という意識が持てる様努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の協力を得ることにより、より良い支援が出来ると考えている。 ・病院受診は家族対応とする事により、家族と利用者が離れないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所前の理美容店等対応出来る所は対応している。 ・地域の文化祭等家族の協力を得ながら参加。	馴染みの人の来訪は家族だけの傾向が強くなってきている。散歩がてら近くの馴染みのスーパーに買い物に出かける方は少なくなっているものの、馴染みの理美容院へタクシーで出かける方、住んでいた地区のお祭りに家族で出かける方がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士が良い関係を築けるような声掛けを心掛けている。 ・		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後面会に行く事もある。また、退所後、ご家族から寄付を頂く事もある。 ・退所後施設側より積極的関わりを持つ事は無い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・その都度本人に聞いたり、日頃の会話や行動から判断している。 ・気づいた時に職員で意見を出しあい方向性を検討している。	「身体を動かしたい」、「うどんを打ちたい」など、利用者は「やってみたかったことをやりたい」思いを持っているとして、利用者の希望に添って、出来ることは一緒にと、日々の会話、仕草から思いを汲み取っている。併せて、入居前に親しんでいた趣味等の暮らしぶりを家族から確認し、職員の連絡ノートに記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・普段の会話の中で拾いだしている。また職員間で共有している。 ・1対1で話し合う時間を設ける様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・「いつもと違う」ところに気づき、食事・排泄・またはレクなどにより日々気を配っている。 ・有する能力に応じて支援の仕方を変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人家族の意向を取り入れながら、少しでも利用者が落ち着いた生活をしてもらえるよう意見を出し合っている。 ・本人の希望と家族の希望が合わない時があるが、少しでも本人が安心できる方向を探る	入居時の介護計画は在宅プランの延長の色彩があるため、環境の変化を踏まえ入居1か月で見直している。介護計画は3か月単位でモニタリング、6か月での見直しを基本に、今ある能力の発揮を重点としている。居室担当、家族、職員全体で話し合っ、計画作成担当が作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース・個別表により情報を共有している。 また、朝・夕の申し送りにより、直ぐに対応出来る様にもしている。 ・介護計画をこまめに変更する事はないが、状態変化には直ぐに対応するよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の希望や受診対応など必要と思われる事には柔軟なサービスを提供している。 ・受診後の薬の受取。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ご家族協力のもと地域の文化祭・お祭り見学に出掛ける。馴染みの床屋にタクシーで出掛け、支払いも自ら行う。 ・必要な物を自分で購入に出掛ける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・情報提供を作成し、生活の状況を伝えている。また、必要に応じて同行し医師に状態を伝える。 ・ご本人・ご家族が言い出せないことなど代弁し医師から確認している。	入居前からのかかりつけ医に通院している方が多い。家族の付き添いとしているが、家族が行けない場合にはヘルパーに依頼する方もいる。予約なしの北リアス病院と家族の都合に合わせて受診できる県立久慈病院が主な通院先となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職間で、些細な変化も情報共有し、変化の原因について観察するよう努めている。また、医療面で心配な時には、同法人に看護師に相談し助言を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、バイタルや生活状況変化が分かるような情報提供を提供。退院時には今後の支援方法を確認し、また、医療相談室のワーカー等に相談し助言を頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・申し込み時に看取りを行っていない事を説明。事業所で出来る範囲を説明し、家族が了解を得ることが出来れば、可能な限りサービス提供を継続している。 ・生活の様子や状況は常に伝える様心掛けている。	医療面の地域的な事情もあり、看取りを行わない旨を入居時に家族に説明し、了解を得ている。重度化しても、可能な限り介護を継続し、継続の可否は、「寝たきり」や「経管栄養」等を目安としている。その場合は、家族と相談し在宅のケアマネと協議しながら他施設を紹介することになる。	看取り介護の実施は、地域、事業所の事情、考え方などに左右されるものの、介護の基礎知識として、職員に看取り介護に関する研修受講の機会を作ることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・研修会に参加させる余裕がなく、定期的な訓練は実施出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアル作成により、高齢者避難準備が発令になると、職員集合、前もって避難時に必要な物を準備している。 ・避難時には、何による準備情報かを確認し避難するようにしている。	消防署が立ち会った保育園との合同避難訓練のほか、夜間を想定した単独の訓練も行なっている。地域はここ数年、様々な災害に見舞われ、防災に対する意識が高く、事業所でも洪水時等の避難確保計画を保育所と合同でこの8月に整備した。避難時には3日分の食料・薬・着替えを携行する手筈となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人一人に合わせた声掛けを心掛けている。 ・入室の際には必ず本人の許可を得てから入室している。 ・「あなたはあなた」「私にはあなたが必要です」ということを伝えられる様心掛けている。	「尊厳は介護の理念」を全職員に徹底している。呼びかけは、利用者が希望する、思いが通じあった呼称とし、声掛けも馴れ合いとは違う家族としての思いで行なっている。居室にいる時、トイレへの誘導の時も声の高低、トーンに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来るだけ本人の希望を叶えられるよう努めてはいるが、安全確保が難しくなっている利用者に関しては家族と相談して決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・毎日今日行いたい事を確認しているが、殆どの利用者が「わかんない」「何もなし」との回答が多い。 ・会話を展開する中で、自己決定出来るよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・殆どの方が、着たい服・お気に入りの服が決まっている。新しい服を購入しても自分の服という認識が低い為、職員が進めても着用することは少ない。 ・洗濯後、直ぐに着用するも、その事が本人の安心に繋がっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・能力に応じて食事の準備・片づけ・テーブル拭き・茶碗拭き・台所の掃除等役割を持たせるようにしている。 ・利用者自ら、食器洗いを名乗り出ることもある。	時には利用者も手伝いながら職員が調理を行い、献立は保育園の栄養士の指導を得ている。季節食を取り入れ、ウナギ、お寿司、へっちょこ団子は人気がある。利用者の誕生日は家族と外食し、好きなものを食べてくる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々に合わせ食事量を調整している。また、本人の訴え時にも対応出来るよう配慮している。 ・水分を好まない人・食が細い人など時間を気にせず確保出来る様配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、歯磨きの声掛けを行い、自力での歯磨きを促している。 ・夕食後の義歯は、必ず職員が仕上げ磨きしている。 ・年2回歯科検診を行い指導を仰いでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄パターンを把握し、出来る限り布パンツでの生活を支援している。 ・夜間は、定期的にトイレ誘導することで、トイレでの排尿につなげている。	8名全員がトイレを使用し夜間のポータブルトイレ使用は1名だけとなっている。排泄記録表で個々のパターンを把握し、夜間は2時間ごとに巡視し様子に応じて声を掛けている。失敗することもあるが、しょうがないこととして職員は意に介していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給。日中の運動・下剤の服用時間等個々の対応をしている。 ・水分拒否の方には、こまめに水分を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2回の入浴日が決まっているが、入浴時間は1日の中で好きな時間に入浴していただいている。 ・夏場など汗をかいた時などはシャワー浴や希望者には足浴を行っている。	週2回、月曜日と木曜日が入浴日である。体調により足湯の時もあるが、9時から15時頃までの間に平均1人30分程度、ゆっくり入浴を楽しんでいる。木材をふんだんに使った建物に相応しく、檜の浴槽となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・昼食後、午睡を取る方が多いが、1時間以上にならない様心掛けている。 ・日中はなるべくホールで過ごし、昼夜を意識できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・日付、名前を本人と確認し、誤薬がないよう努めている。 ・服薬準備はダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・買い物や園児等の交流を楽しんでいる。 ・家族の了解が得られた方には、コーヒーや飴など好きな物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・誕生日には本人の希望する所へ出掛ける(温泉・馴染みの店など) ・家族の協力を得ながら、地域のお祭りや馴染みの床屋などに出かける。 ・受診は家族対応としているため、家族との時間を過ごせるよう配慮している。	毎日の散歩は、希望者が職員と一緒に施設周辺を30分ぐらいかけて回っている。その他の方は中庭で保育園からお下がりのカラフルなベンチで日光浴しながらおしゃべりしている。希望の温泉施設や出身地の敬老会には、家族の協力で出かけている。ドライブは隣接の保育園のバスを利用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を持っていることで、安心感が得られるため、使用しなくても財布を持っている方もいる。 ・金銭を使用する方は、中身が少なくなった時には家族より補充して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話したい時には対応している。 ・誕生日などメッセージが届いた時には、お礼の手紙を書き投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を感じられる様、回廊を壁画で飾っている。 ・中庭に花を植え、季節を感じられる様心掛けている。 ・プランターで野菜作り、収穫した物の保存等目で楽しめる様配慮している。	食堂のテーブルを中心に歌唱、なぞなぞ、トランプ等を楽しんでいる。居室が並ぶ回り廊下は広く長く、利用者もお手伝いして清掃され、冬にはミニ運動会の会場にもなっている。朝の体操は「きよしのずんどこ節体操」で盛り上がっている。廊下の壁には季節感ある利用者の創作切り絵が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・長椅子やベンチなどを利用し、個々が好きな時間を過ごしている。 ・窓が広いため、屋外の様子を見て楽しむことが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時馴染みの物を持ち込んでもらう様お願いしている。TV・こたつ・あんか等在宅時に使用していたものを持ち込んでいる。 ・必要な物があれば、家族と相談して持ち込んでもらっている	洋室3室、和室6室の居室には洗面台とダンス、クローゼット、洋室のベッドが備え付けられ、長押しもある。1室10畳ほどの広い居室は落ち着いた造りになっている。腰高の広い窓があるが、今はそこから外の出ていく利用者はいない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレは扉を半分開け、未使用である事が分かるようにしている。 ・下駄箱には名前ではなく、目印となるマークを使用し自分の場所がわかるようにしている。		